

河内名所図会を歩く⑧ 東高野街道・郡川西塚古墳編

令和3年6月、国の文化審議会において、市内東部の高安山麓に分布する近畿地方有数の大型群集墳の国史跡高安千塚古墳群に郡川西塚古墳と、服部川支群の一部の古墳の追加指定が答申されました。

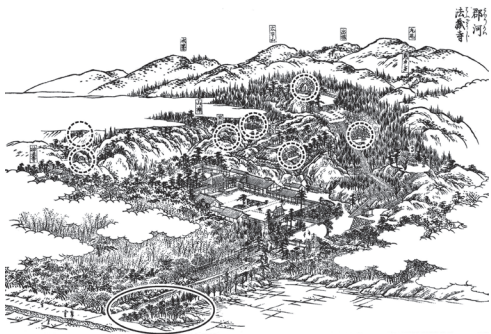
郡川西塚古墳は、6世紀前半に造られた全長約62mの前方後円墳です。東高野街道沿いの西側にあり、街道を挟んで東側にはほぼ同じ規模の郡川東塚古墳があります。郡川西塚古墳の埋葬施設は、初期の横穴式石室で明治期に鏡や耳飾などの副葬品が見つかっており、朝鮮半島の文化や技術をいち早く導入できた人物が埋葬されていたと考えられます。この古墳の築造後、

東へ約1km離れた場所に、横穴式石室を埋葬施設とする高安千塚古墳群の築造が開始されます。

江戸時代の『河内名所図会』の法蔵寺の挿絵には、境内にある7基の古墳が描かれています。ほかにも、法蔵寺から西に下った東高野街道沿いに塚状のもの

が描かれており、位置関係から郡川東塚古墳と考えられます。郡川西塚古墳は挿絵の外で描かれていませんが、東高野街道を旅する人々にとって街道を挟んで並ぶ2基の前方後円墳は目印になったことでしょう。

追加指定の答申を受け、高安千塚古墳群と郡川西塚古墳について、今後一体的な保存・活用を図っていく必要があります。



▲図会に描かれた法蔵寺の挿絵

☆問合せ

観光・文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・3995